

ちいきそうぞう

持続可能な地域の創造に向けて Step by Step !!

特定非営利活動法人 (NPO法人) にいがた地域創造センター



第20号

2024.12.25

主な活動状況

新潟県立新潟工業高等学校
ミライ創造工学科1年生

身近な社会資本見学会

通船川と
山の下閘門排水機場

河川情報モニター

都市公園情報モニター

新潟県都市緑花フェア

万内川砂防公園の環境整備&サマーフェスティバル

第8回地域懇談会in三条

広報誌「ちいきそうぞう」の内容は、ホームページに詳しく紹介していますので、こちらもお覧下さい

にいがた地域創造センター 検索
<https://ngt-tiikisouzou.jp>





就任のご挨拶

理事長 棚 橋 元

冬の寒さが身に染みる季節となりました。会員の皆様には日頃より特定非営利活動法人にいがた地域創造センターに対しご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、私こと、このたび理事会にて宮野理事長の後任として新理事長の役を仰せつかることになりました。その重責に身が引き締まる思いではありますが、建設技術の知識を活用して地域活性化に寄与するという当法人の目的を果たすべく、精一杯取り組んでまいり所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

この1年間を振り返ってまず思い起こすのは、元日の能登半島地震です。各地で道路が寸断され、被災地の支援や復旧作業がなかなか進まない状況が続きました。その後少しずつ被災した道路がつながり、復旧・復興がようやく緒に就いたかに思われた9月、今度は豪雨災害が追い打ちをかけるように発生しました。自然災害の頻発化・激甚化の現状を見るに、たゆまざる防災・減災への対応の必要性を痛感しています。

このような自然災害をはじめ、建設界を取り巻く環境は、大きく様相を変えています。地球温暖化、人口減少、社会資本の老朽化、東京一極集中など様々な問題が急速に深刻化しつつあるように思います。

当法人は昨年10月に設立20周年を迎えたのを機に、こうした昨今の状況を踏まえ、あらためて今後の取組の方向性を確認したところです。建設の知識・経験を活かした社会貢献、建設産業の魅力や社会資本の重要性に係る情報発信、地域や行政との連携及び会員相互の交流の促進といった活動方針を基本に着実に事業を進めてまいります。当法人の取組に対し引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年、令和7年が皆様にとって良い年となりますようお祈り申し上げまして、就任のご挨拶とさせていただきます。



退任あいさつ

前理事長 宮 野 岳

このたび、特定非営利活動法人にいがた地域創造センター理事長を退任いたしました。

在任の2年間、正会員の皆様のご尽力に支えられ、賛助会員の皆様のご支援と新潟県関係機関の皆様のご協力を頂き、着実に社会貢献活動を進めることが出来ました。また、令和5年に当センター20周年の節目の年を迎え、様々な記念事業を実施するとともに、ホームページを開設、これまでの活動を総括し新たな活動の方向性を策定いたしました。当センターの活動に関わって頂いたすべての皆様に心から感謝申し上げます。

当センターが地域社会に貢献し続けるとともに、正会員の皆様のご健勝、賛助会員の皆様のご清栄、新潟県が安全・安心で持続的に発展することを祈念申し上げ、退任のご挨拶といたします。



建設産業の“見える化”をめざして

新潟県土木部技監兼政策監 山 郷 和 久

特定非営利活動法人にいがた地域創造センター会員の皆様には、日頃より河川巡視パトロール等、新潟県土木行政の推進にご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

県民の安全・安心の確保、地域経済の活性化、雇用の確保等に大きな役割を果たす建設産業は、少子化による担い手不足や労働基準法における時間外労働の上限規制の適用が大きな課題となっております。

このため、県といたしましても担い手確保や生産性向上に向けて、現場ではICT活用工事の拡大、週休2日適用工事の改定、除雪作業のDXを進めております。

先の10月末に、次期「新潟県総合計画」（仮称）の素案が公表され、そこには「人口定常化」を目指し2100年の県人口を100万人程度に安定させるシナリオが記されています。

労働供給の制約が進むなか、建設産業界の価値と必要性などを、各方面の方々が多角的に発信し、地域の安全・安心を継続していかなければなりません。

今年度、建設産業への就職を考えていない高校生・大学生等の若者をターゲットに、3Kから新4K（給与・休暇・希望・かっこいい）へと変化しつつある建設産業のイメージ向上を図ることを目的とし、建設産業の魅力発信に向けた新たな取組として、「建設産業魅力発信ポータルサイト」の開設準備を進めています。

官民問わず、将来の担い手確保の対応は喫緊の課題となっています。

そのためには、この広い意味での建設産業が魅力ある産業でありつづける必要があります。「住んでよし、訪れてよしの新潟県」の実現のため、様々な課題にチーム土木で取り組んでいきたいと思っておりますので、にいがた地域創造センターの皆様からも、引き続き新潟県土木部へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、特定非営利活動法人にいがた地域創造センターの益々のご発展と会員の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

活動状況報告

(令和5年11月1日～令和6年10月31日)

詳細はHPへ
<http://ngt-tiikisouzou.jp>

令和5年

- 11月9日 令和4年度会計監査
11月21日 第79回理事・監事会議
・令和5年度通常総会議案(案)について
・「NPO会員の講師登録」の今後の進め方(案)について
・ホームページ 関連団体の記事掲載について 他
12月21日 第80回理事・監事会議
・令和5年度通常総会議案について
令和5年度通常総会
・令和4年度事業報告及び収支決算の承認について
・令和5年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
・役員選任について
(正会員 231名 内出席 27名
委任状提出者 204名(全255名))

令和6年

- (4～9月) 河川情報モニター [新潟県からの依頼]
(通 年) 都市公園情報モニター [新潟県からの依頼]
3月21日 河川情報モニター地域担当者会議
・新潟県における治水対策について
・令和6年度河川情報モニターの実施計画
4月1日 建設技術協会特別会員部との受託契約
4月18日 第1回役員会議
4月29日 第36回新潟県都市
緑花フェア
宮野理事長が記念植樹
(新潟県スポーツ公園)

5月17日 新潟県土木部業務研修「指導者(課長)」
講師派遣
5月24日 新潟県土木部職員研修「災害復旧(模擬査定)」
実務指導(査定官役)及び技術専門家派遣制度
講師派遣
5月30日 けんせつセミナー「初任者技術研修」
「災害復旧(1)」講師派遣
5月31日 都市公園情報モニター担当者会議
・新潟県都市公園情報モニターについて
・情報モニター活動時の事故対策について

- 6月6日 新潟県土木部職員研修「河川に関する特別講義」
講師派遣
6月12日 第81回理事・監事会議
・今年度事業について 他
7月22～29日(万内川砂防公園サマーフェスティバルの一環事業)
パネル展(登録有形文化財万内川石積堰堤群等)
会 場: 道の駅あらい(くびき野情報館)
来場者 264名 参加会員延べ17名 [支援事業]
7月17日 いがた道の研究会 第19回トーク会
参加者 53名 [支援事業]
8月2日 万内川砂防公園 環境整備事業
参加会員 38名 [支援事業]
8月10日 万内川砂防公園サマーフェスティバル
来場者 1,028名
参加会員 33名
[支援事業]



- 9月27日「身近な社会資本の見学会」の
事業実施に向けた担当者会議
・見学会事業の実施概要について
・実施における運営体制について
10月9日「身近な社会資本の見学会」[受託事業]
・対象者: 新潟工業高等学校ミライ創造工学科
1年生 生徒 40名、引率者 2名
・実施内容
① 室内学習
身近な社会資本の役割、建設産業の役割、
担い手育成を資料で学ぶ
② 既存の社会資本見学
乗船体験: 山ノ下閘門排水機場、通船川
③ 建設中の社会資本見学
鳥屋野潟築堤工事: 新潟県発注
10月16日 第8回地域懇談会in三条
参加者62名(企業数34社)
10月30日 第2回役員会議

NPO法人にいがた地域創造センターと連携した「地域を支える建設産業の底力発信事業」

身近な社会資本の見学会

見学会会場 施設管理者
新潟地域振興局地域整備部

詳細はHPへ
<http://ngt-tiikisouzou.jp>

去る10月9日(水)、新潟工業高校1年生を対象に「身近な社会資本の見学会」を開催いたしました。今回は、山の下閘門排水機場と鳥屋野潟を題材として、社会資本の役割や建設産業の魅力を学んでいただきました。生徒の皆さんも大変喜んでおりました。企画・運営等、貴センターの皆様の御協力に感謝申し上げます。

新潟工業高等学校生徒さんの感想

○普段では体験できないことを体験でき、人生で見れるかも分からなかった橋の下など、土木科でしか体験できない貴重な経験になった。まだ入ったばかりで意味が理解出来ないところもあったが、2年後にはああいう職場にいたり、もっと成長したいと思った。山の下排水機場では数多くの人が監視をしたり、安全性もあるなどの細かいところまで知れたので良かったです。ぜひまた行きたいし、今度は話す側にもなりたい。
○今回の社会見学を通して、今まで全く行ったことがなかったところに行っているいろいろなことを知れてとても良い経験になったなと思いました。山の下閘門排水機場に

についての講習では閘門の今までの歴史や出来事をたくさん知ることができました。25mプールの水を8秒で抜けることや、観音開きの扉が日本に3ヶ所しかないという話を聞いた時はとても驚きました。乗船体験では初めて小型船に乗っている人の気持ちが分かりました。風水温の影響でとても寒かったなという思い出が強いですが、築堤工事現場については、実際に見に行くことはできなかったけれど、本間組さんからいろんなお話を聞いて、自分の中で様々な考えを持つことができたので良かったですかなと思います。本間組さんのトークショーが終始面白すぎてとても楽しく聞くことができました。



【地域懇談会】を三条市で5年ぶりに開催

詳細はHPへ
http://ngt-tiikisouzou.jp

事業部

当NPO法人の紹介や地域の課題等をテーマに、当会員や県職員、建設業・測量設計業の方々と懇談する地域懇談会を、総勢62名（企業数34社）の参加で、令和6年10月16日に三条市で5年ぶりに開催しました。

三条地域振興局地域整備部の安井和也部長から「管内のインフラ整備の進捗状況や今後の事業展開」について、（一社）新潟県アウトドア協会の紫竹陽介代表理事からは「三条市が自慢の街になるために”夢を語ること”と”気運を高めること”の必要性」についてご講演頂いた後、懇談・懇親を図りました。なお、懇談会後に新たに5社の皆さんから賛助会員に入会していただきました。ありがとうございます。



河川情報モニター実施報告

詳細はHPへ
http://ngt-tiikisouzou.jp

企画部

河川情報モニター活動は平成18年から県の「情報モニター設置要綱」に基づき、各地域振興局から依頼を受けて実施をしており今年で19年目となりましたが、会員の地域的な偏在と高齢化により継続が危ぶまれる地域があるため、令和4年からはアンケートにより会員の活動可能地区を聞き取り、活動体制の確保を図っています。令和6年は138名（延べ457名）の会員の協力により、17地区127河川の巡視を実施しました。



地域機関名	地域担当者		巡視河川数	巡視河川延長 (km)	NPO配置人員	NPO実施回数延人数
	主任	副主任				
村上	高橋 一男	長谷川 哲也	8	9.7	6	20
新発田	出村 豊	檜内 睦夫	1	27.0	8	32
新潟	津 佐藤 勝行	近藤 守	32	118.7	19	67
津川	中野 俊	坂井 徹	4	14.8	2	6
新潟	湯 鈴木 孝英	田邊 敏夫	6	45.6	6	12
巻	笹川 岳之	鈴木 潤	7	138.4	13	43
三条	吉田 武	鈴木 則昭	12	107.6	8	32
長岡			9	126.6		
与板	吉野 利夫	棚橋 元	3	47.0	25	98
小千谷			6	37.8		
魚沼	関 浩二	北島 信博	2	36.4	6	11
十日町	樋口 利幸	井口 久雄	9	97.8	8	15
南魚沼	池田 敏彦	諏佐 夏夫	3	34.6	3	11
柏崎	吉田 芳郎	今井 英伸	2	34.4	5	14
上越・上越東	荻原 正彦	本田 誠一	9	141.3	16	61
糸魚川	本田 誠一	荻原 正彦	3	40.6	4	11
佐渡	藤井 武良	佐藤 暢英	11	56.0	9	24
計			127	1,114.3	138	457

都市公園情報モニター実施報告

詳細はHPへ
http://ngt-tiikisouzou.jp

企画部

公園名	担当者	
	主任担当者	補助担当者
紫雲寺記念公園	峰村 修	三木 公一
聖籠緑地	中野 俊	串田 鉄夫
島見緑地	松川 真	鈴木 興次
鳥屋野湯公園 女池・鍾木地区	丸山 和浩	笹川 清米
スポーツ公園北地区	廣井 厚	鈴木 孝英
スポーツ公園南地区	田邊 敏夫	有波 修
県立植物園	斎藤 紀良	田宮 強
奥只見レク都市公園 浅草岳地域	山ノ内 久	坂西 和也
大湯地域	関 浩二	棚橋 元
須原地域	星野 正昭	北島 信博
小出地域	吉田 芳郎	田邊 一喜
道光・根小屋地域	高峰 正俊	新部 正道
浦佐地域	諏佐 夏夫	飯塚 敏彦
大潟水と森公園	本田 誠一	荻原 正彦

都市公園を利用する県民の視点を公園管理（指定管理者への指導など）に取り入れるための都市公園情報モニター活動は、平成22年から県立6公園（緑地）7地区14名で活動を開始し、令和4年からは奥只見レクリエーション都市公園も加えました。令和6年は14地区28名がモニター活動を実施しました。



編集後記

能登半島地震で始まった令和6年、新潟県内でも未だ復旧の終わっていない箇所もあります。一日も早い復旧を願っています。

NPO法人設立20周年を記念して開設したホームページ（HP）は2年目を迎え、閲覧者が3000回を超え、少しずつ認知されてきました。今後は、広報誌とHPの特徴を生かしながら情報を発信していくこととし、広報誌「ちいきそうぞう」を本号から一新しました。皆さんからご意見ご要望を頂きながら、さらに見やすく分かりやすい情報発信ツールとなるよう、取り組んでまいります。（M.O）



特定非営利活動法人(NPO法人)
にいがた地域創造センター

理事長 棚橋 元

事務局

〒950-1101 新潟市西区山田2522-18

(一財)新潟県建設技術センター内3階

TEL / FAX (025) 267-4877

E-mail Jimukyoku@ngt-tiikisouzou.jp

URL http://ngt-tiikisouzou.jp